

鳥獣の 保護管理

地域一体となって獣害対策に取り組む（浜田地区）

～ 獣害に強い集落づくりを目指す ～

研究の背景・目的

本県では、市町や集落等による被害対策の取り組みはあるものの、中山間地域を中心に野生鳥獣による農林作物等への被害は依然として深刻な状況です。浜田市は県内でも有数の西条柿の生産地ですが、クマによる被害が多発しています。そこで、浜田市のカキ園において、集落ぐるみの獣害対策による実践型研究プロジェクトを実施します。地域住民の意識調査から地域一体となったクマ対策に取り組むための集落へのアプローチの方法を模索しながら、その手法を確立します。

研究方法

浜田市の田橋、横山集落において、地域が一体となった獣害対策の取り組みの効果を検証します。出没・被害状況を集落の土地利用や森林環境などから分析して、効果的な被害対策のための技術手法を確立します。また、集落ぐるみでの被害対策の取り組みにマンパワーが不足している場合の解決策についても検討します。

研究状況

①モデルカキ園でのクマ対策

2013年8月に横山西集落にあるカキ園（面積：20a、本数：35本）にクマ用の電気柵（400m）を設置しました。既存の高さ90cmの忍び返し加工されたワイヤーメッシュ柵の上部10cmに1本の電線を設置して、碍子を固定する支柱は、22mmまたは25mmの直管パイプを使用しました。2013年は、クマが電線に触れる前にワイヤーメッシュに手をかけて折り曲げて侵入したので、2014年6月にこれを折り曲げられないように上部を直管パイプで補強しました。しかし、9～12月に電気柵内へクマの侵入を10回も認めました。侵入は、補強していなかった出入口の門扉からでした（写真1）。侵入の方法やセンサーカメラから、2013年に侵入した個体と同一であり、電気柵への侵入方法を学習した可能性が高いと考えられました。

②外部からのマンパワー

2014年3月、横山西集落において、イノシシ対策用に設置した広域ワイヤーメッシュ柵の維持管理のための草刈と新たな場所にワイヤーメッシュ柵を設置するために浜田市のシルバー人材を活用しました。ワイヤーメッシュ柵周辺の草刈は、シルバー人材3名、ワイヤーメッシュ柵の設置は自治会長とシルバー人材3名で作業を各1日行いました。ワイヤーメッシュ柵の設置は、自治会長から指導を受けながら行いました。作業の当初は、ワイヤーメッシュと支柱とを番線で結束するのに手間取ったものの、自治会長からは「労力が足りなかったので助かった」と高評価でした。作業の内容によっては、導入が難しい場合もありますが、シルバー人材は集落外からのマンパワーとして活用できると考えます。なお、作業単価は、草刈が9,740円（8h/人、刈払機代を含む）、ワイヤーメッシュ柵の設置が8,750円（8h/人）でした。



写真1 出入口の門扉からのクマの侵入跡

研究成果の活用・今後の研究計画

モデル地域において、地域一体となった獣害対策によって被害の軽減効果を実証できれば、効果的な取り組みとして、県内の各地域へ普及させることができます。

また、獣害を集落の許容範囲に抑えることによって、集落の維持と活性化につながります。

担当科 : 鳥獣対策科

研究担当者 : 澤田 誠吾（さわだ せいご）

MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207

問い合わせ先 : 0854-76-3818（直通）

E-mail : chusankan@pref.shimane.lg.jp（代表）

試験研究課題名 : クマをはじめとする野生動物との軋轢軽減へ向けての地域一体となった取り組みの効果調査（研究期間：H24年7月～H28年7月）

